

あのとき、あしべつは

ちょっとだけ過去に寄り道散歩 ①

今年、芦別市は市制が施行されてから60周年を迎えました。今回からこの60年を10年ごとに区切り、その中のエピソードを取り上げて振り返ります。

1953(昭和28)年～1962(昭和37)年	
芦別市内での主なできごと	
1953(昭和28)年	市制施行(4月1日)
1954(昭和29)年	一級国道38号線のうち芦別市街中心部230mをアスファルト舗装
1955(昭和30)年	芦別高校野球部が夏の甲子園出場
1957(昭和32)年	上芦別町と本町地区に上水道給水開始
1958(昭和33)年	芦別市の人口最高を記録(12月31日現在の住民登録・7万5,652人)
1961(昭和36)年	道内初のカーブ橋・野花南大橋が完成
1962(昭和37)年	野花南アースサークル(現・野花南周堤墓群)、黄金水松、芦別獅子を芦別市文化財に指定
北海道内外の主なできごと	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮戦争休戦成立(1953) ・台風15号により洞爺丸など沈没事故(1954) ・第5福竜丸が米国の水爆実験で死の灰を浴びる ＝ビキニ環礁事件(1954) ・日本が国連加盟(1956) ・北海道の人口が500万人を突破(1958) ・東京タワー完成(1958) ・ソ連のガガーリン飛行士を乗せた世界初の有人衛星が地球を一周(1961) ・キューバ危機(1962) 	

芦別市の人口のピーク

超7万人を超える



写真は、1957年(昭和32年)頃と思われる芦別大通り(国道38号)での芦別神社例大祭のみこし行列の様子。国道38号の舗装工事は、54年(昭和29年)から始められましたが、この写真の当時はまだ行われていないようです＝星の降る里百年記念館蔵

芦別の人口は、第二次世界大戦中の1940年(昭和15年)に1万7,011人だったのが、石炭需要の高まりに伴って急増し、50年(昭和25年)には5万8,547人と、10年間で3.4倍にもなりました(国勢調査)。ピークは、国勢調査では55年(昭和30年)の6万8,091人ですが、住民登録人口では58年(昭和33年)12月31日現在の7万5,652人が記録されています。

60年(昭和35年)以降、炭鉱の合理化、閉山などによって人口は減少の一途をたどり、68年(昭和43年)には5万人を割りました。

現在は、1万6,105人(6月1日現在)で、これは1939年から40年頃にかけての水準です。

指揮者先頭

指揮者先頭とは、「指揮者は常に皆の先頭に立って行動する必要がある。」という意味で、私が考えた大切にしている言葉です。

No. 13



「あしべつ寄席」では、たくさんの方にお越しいただきました。私も十分楽しませてくれました。

陽射しがだんだんと強くなってきました。いよいよ本格的な夏の訪れを迎えようとしています。現在、芦別120周年・市制施行60周年を祝う多くの行事が順調に開催されています。6月に開催された「あしべつ寄席」は林家正藏師匠をはじめとする豪華な出演者による素晴らしい事業でした。市民の皆様方も

楽しんでいただけたかと思ひます。7月は芦別の夏を彩る「健夏まつり」が開催されます。多くの皆さんが参加され、楽しんでいただきたいと思います。

私も相変わらず市内外を飛び回っています。7月は「空知総合開発期成会」と「国道452号建設促進期成会」の中央要望のため上京の予定です。道産子の私には灼熱の東京での活動は厳しいものがありますが、暑さに負けない熱意を持って地域の声を中央に伝えるつもりです。

さて、最近では異常とも思える「暑さ」が続く日もありますが、体調管理に十分ご留意していただき「健」やかな「夏」をお過ごしください。

(平成25年6月18日・記)

芦別市長 清澤 茂宏